

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業	
事業名	関本昌平ピアノ・リサイタル			
目的・内容	<p>当財団では、地元アーティスト支援事業を平成14年度から実施しているがその応募対象者と同年代のプロの公演を行うことにより、オーディションの参加対象者、県内音楽指導者、ピアノ学習者への刺激を与え、県内の音楽活動、意識の向上を目指す。</p> <p>【使命】県民へのサービス推進 【事業企画の柱】鑑賞公演の多様化 【内容】関本昌平によるピアノ・リサイタル、ミニ・コンサート（3/11 皆生養護学校）</p>			
開催日時	平成20年3月12日（水） 19:00開演			
会場	米子市文化ホール メインホール			
入場料・参加費 (友の会)	一般 3,000円 (2,500円)	中学生～大学生 1,000円	小学生 800円	
集客状況	入場者数 363名	設定席数 672席	集客率	54%
事業費状況	予算額	収入 1,061,000円	支出 1,744,000円	収支比率 61%
	決算額	収入 826,700円	支出 1,008,558円	収支比率 82%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・テクニックだけでなく、多彩な音色を出せる方で、今後を期待しています。 ・心洗われるすばらしい演奏を聞き、日頃のストレスが解消されました。 ・新進気鋭のアーティストのイベントをこれからも期待しています。 ・お話されるお人柄の良さを感じました。 ・平日なので、来られない子どももいた。 ・係員の方の対応が早くて丁寧で、とても良かったです。 ・もっと米子でこのような会を米子で開いて欲しい。 			
1次評価 (内部)	<p>【成果】</p> <p>①公演日前日に皆生養護学校でのミニコンサートを開き、直接開場に足を運び辛い子どもたちに音楽に触れる機会を提供できたことは、この演奏会を開催する上で、当初の目的を超えてより多くのお客様への広がりを作ることが出来た。</p> <p>②本公演においても、アンケート結果からの満足度も高く、終了後のサイン会にも長蛇の列ができるなど、出演者・観客が一体となったコンサートとなった。</p> <p>【課題】</p> <p>①アーティストの公演日程変更が最大の問題点である。従って、当日の観賞者数に影響が出た。新人や若手アーティストの日程決めは、今後慎重に対応が必要。事務所との良好な関係を作るといことも大事だが、主催としての明確な対応を厳しくすることも重要。</p> <p>②更なる集客のためには団体客層を複数取り込む必要がある。少人数を数多く丹念に取り込む、人脈の開発が一番の課題である。</p>			
2次評価 (財団評議員)	<p>【成果】</p> <p>①特別支援学校でのミニコンサートは芸術に親しみ、感性を育てる面からも大いに評価できる。</p> <p>②親子、家族での鑑賞が目立ち、親として、家族として質のよい芸術鑑賞を我が子とともに、ひとときの場を共有することの効果は、すぐに現れることは少ないかもしれないが、人材育成、今後の寄与の面からは良いと思われる。</p> <p>【課題】</p> <p>①退屈そうな子どもを楽しませるインパクトのある企画を流れの中で考えてみる必要があると感じた。</p> <p>②考え方は正しいと思うが、実行段階でもう少し踏み込んだ方が良いと思う。もっと細やかなチケット販売方法とか、PR方法をとるための協力員などがあればよい。口コミをもっと大切に。</p> <p>③口コミで100%満席になるはずのコンサートと思う。もっと西部に土地勘や人脈を作らなければ、今後も努力は報われないだろう。</p> <p>④従来のピアノ演奏の学習者の層だけではなく、より広い層に目を向けてゆくことが必要ではないか。感受性の高い若い年齢層に、高い芸術(つまり感動を伝える力のある演奏)に触れる機会を作ることが、対策としては考えられる。(例えば中高の生徒を、こうした演奏会に(安い価格、あるいは無料で)招待するための席を、全体の3割程度、設けると言った思い切った対策)</p>			
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・当財団では、クラシックの地元アーティストを発掘するオーディションを開催しているので、その目標や刺激になる若いプロの演奏者を紹介する事業選定も検討していく。 ・新しい鑑賞者開発ができるよう、口コミなどを生かし広報を工夫していく。 ・販売促進のため、更なる音楽関係者の把握を行い、周知をしていく。 ・若い年齢層を取り込めるような方策を検討していく。 			